

---

# **皮肉は鉛筆**

ラーメン

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

皮肉は鉛筆

### 【Zコード】

N3781D

### 【作者名】

ラーメン

### 【あらすじ】

僕の名前は鉛筆だ。鉛筆にはスゴい力があった。それを知ったのはくだらない日常からだ。喰われた鉛筆は生きるか死ぬか。生死をさ迷う感動の物語。

(前書き)

とにかく読んで下せ。

僕は鉛筆である。

三菱で作られた新品の鉛筆だ。

そして今北海道の文房具屋に置かれた。

ここで僕は1人の少女と出会った。

少女の名前はキングコング。

ちなみにこの少女は日本人である。

キングコングは毎日この文房具屋に来てくれる。いつも僕を見つめる。

そしてまとまるくんを買って帰る。

そんな日々が11年続いたそんなある日。

少女は中学3年生になっていた。

とても不細工でまさにキングコングだった。

キングコングは一児の母親であった。

そして夫もいた。

夫は79歳らしい。

どうやら援助交際のつもりだったが子供が出来ちゃってできちゃった結婚らしい。

しかし夫は高校生だ。

留年を繰り返しこの間にか79歳になっていたみたいだ。

僕はその家族に買われた。

僕はおられた。

削られた。そんな日々が続いたある日。喰われた。夫に喰われた。

僕は無性にムカついた。だから夫の喉を刺してやつた。夫は死んだ。

その日から夫の死因の警視庁による調査が始まった。僕は焦った。

犯人として疑われたのは僕でなくキングコングだった。キングコングは犯人でないのに認めた。そしてキングコングには死刑判決が出された。死刑執行は明日らしい。ちなみに夫の遺体は庭に埋められ

た。そして死刑執行日。キングコングは大量のヘリウムガスを体内に注入され酸素不足である世に行つてくれた。僕はせいせいした。キングコングは馬鹿だ。って僕は思った。しかし僕は怖かった。人間を2人も殺せる力が僕にはあるんだ！！と。結局僕は夫の胃で消化された。僕の鉛筆人生は幕を閉じた。

(後書き)

鉛筆の皮肉さが解ったでしょうか。鉛筆は大切にしましょう。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3781d/>

---

皮肉は鉛筆

2010年11月3日02時07分発行